

論文

日本の公立図書館における LGBTQ 関連図書の提供実態: 閉架／開架, 展示, 貸出, 除籍に着目して

水沼 友宏

(桃山学院大学講師)

Provision of LGBTQ-Related Books in Japanese Public Libraries: Focusing on the Open/Closed Stack System, Displays, Lending, and Weeding.

By Yuhiro MIZUNUMA

(Lecturer of St. Andrew's University)

抄録

LGBTQ の人々への情報提供の重要性は様々な文献で述べられており, 図書館の役割に言及する文献も少なくない。そのような中, 日本の図書館を対象とした LGBTQ 関連資料の所蔵調査は実施されているものの, 排架場所などの提供実態はほとんど明らかになっていない。そこで本研究では, 日本の公立図書館を対象に, LGBTQ 関連図書の閉架／開架, 展示, 貸出, 除籍の実態を調査した。126 自治体の 285 館を対象に, OPAC を用いてのべ 13,726 件の LGBTQ 関連図書の調査を行った結果, 閉架書庫に所蔵されている図書の比率, 展示されている図書の比率, 貸出中の図書の比率はそれぞれ 22.7%, 0.6%, 7.8% であったこと, 3 年間で 3.8% が除籍されており, 2.4% が自治体内の公立図書館からなくなっていたことが明らかになった。さらに展示館数の多い図書の上位にはタイトルから LGBTQ に関するものと分かりやすい図書が並んでいたこと, 公立図書館を対象とした電話調査から男女共同参画や SDGs, 母の日の展示など, 様々な展示で LGBTQ 関連図書が排架されていることが明らかになった。

Abstract

Many studies suggest that providing LGBTQ-related information to LGBTQ people is essential, and some point out the role of libraries in achieving such provisions. In this context, some studies show the number of LGBTQ-related books provided in libraries in Japan. However, few examine how such books are provided in these libraries. This study thus examines the provision of LGBTQ-related books in Japan's public libraries by focusing on the closed stack system, displays, lending, and weeding. Using each library's OPAC (online public access catalogue) we retrieved 13,726 LGBTQ-related books in 285 public libraries and clarified the current situation. The results showed that 22.7% of the sample LGBTQ-related books were stored in a closed stack, 0.6% were displayed, 7.8% were on loan, and 3.8% were weeded. Moreover, 2.4% of the books were weeded, although they were unavailable at other municipal public libraries. In addition,

through telephone surveys, we clarified that LGBTQ-related books were displayed on various themes, such as gender equality, SDGs (sustainable development goals), and Mother's Day.

1 はじめに

LGBTQとは、Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Questioning/Queerの頭文字をとったものであり、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）を表す言葉の一つである¹⁾。LGBTQの人々への情報提供の重要性は様々な文献で述べられており²⁾、図書館の役割に言及する文献も少なくない³⁾。そのような中、後述するように日本の図書館を対象とした所蔵調査も実施されている。しかし、LGBTQに関する資料（以下、LGBTQ関連資料）の提供方法については、国内外で様々な議論があるにもかかわらず、日本の図書館の実態はほとんど明らかになっていない。そこで本研究では、特に閉架／開架、展示に焦点を当て、LGBTQに関する図書（以下、LGBTQ関連図書）の提供実態を、貸出、除籍の実態と併せて明らかにする。

調査対象は、2019年に筆者らが所蔵調査⁴⁾を実施した自治体（1,260自治体）から無作為に抽出した126自治体の図書館（285館）とし⁵⁾、各図書館のOPACを用いて2019年時点で所蔵が確認されたLGBTQ関連図書の検索を行った。さらに展示の実施が確認された図書館に対しては電話調査も実施しその傾向を調査した。

さて上述した通り、本研究では(1)閉架／開架、(2)展示、(3)貸出、(4)除籍、に着目するが、以下ではそれぞれの重要性について述べる。なお、以下で述べる「手に取りづらさ」や「メッセージ性」に関する文献は、2章にまとめた。

まず、(1)の「閉架／開架」について述べる。LGBTQ当事者の人々は、家族や友人・知人に自分たちが当事者であることを公言していない（いわゆる「カミングアウト」を行っていない）人々も少なくない。また、公言している場合であっても、図書館員や他の利用者などには資料の利用を知られたくない人も存在し得る。こうした人々を感じる関連資料の「手に取りづらさ」が図書館における資料利用のハードルになっていることは、様々な文献で指摘されている。このような中、閉架書庫に資料が収蔵されている場合は、基本的にはタイトルを職員に伝える必要があり、この「職員への声かけ」が利用のハードルになると考えられる。そこで本研究では、そもそも図書館に所蔵されているLGBTQ関連図書のうち、どの程度の図書が「声かけ」を必要とするのか、つまりどの程度が閉架書庫に排架されているのかを明らかにする⁶⁾。

次に、上記(2)の展示について述べる。上述したように資料の利用を知られたくない利用者を考慮すると、LGBTQ関連資料は、職員に声をかける必要がなく、また職員や他の利用者の目につきにくい場所に排架することが望ましいと考えられる。しかし一方で、そうした資料が図書館にあることを知らない当事者の人々や関係者、アライ（理解者、支援者、応援者）⁷⁾、それ以外の人々など、目立つ場所に排架される方がアクセスしやすい場合もある。また、LGBTQに関する図書館の役割としては、当事者や当事者以外の人々への「メッセージ性」も期待されているが、その観点からも、資料を探していない人々の目につくことは重要である。そこで本研究では、目立つ場所への排架の一例とし

て「展示」を取り上げ、図書館でどのようなテーマで、どのような図書と合わせてLGBTQ関連図書が展示されているかを明らかにする。

最後に、貸出、除籍の調査について述べる。公立図書館におけるLGBTQ関連図書の所蔵調査は2019年に実施されているものの、そこでは貸出や除籍については調査されていない。図書館員に利用を知られたくない利用者は、閉架書庫同様、図書の借出を躊躇する可能性もあり得る。しかし、そのような状況においても貸出されているLGBTQ関連図書は、特に需要の高い図書であるとも考えられる。したがって、本研究で貸出の多い図書のリストを示すことができれば、関連図書の収集を検討している図書館の役に立つのではないかと考えた。

また、他の図書館から取り寄せる場合も同様の「利用しづらさ」の問題が生じる可能性がある。つまり、取り寄せに当たってタイトル等を職員に伝えなければならない場合が少なくないことから、図書が除籍されることで利用のハードルが跳ね上がる可能性がある。そこで本研究では、3年間の間にどの程度の図書が除籍されたのかを調査する。加えて、所蔵している図書館が遠方の場合は、資料を利用できない利用者が増加すると考えられることから、自治体外を遠方と仮定し、同一自治体内から1冊もなくなってしまった図書はどのくらいかについても調査する。

以上のように、図書館におけるLGBTQ向けサービスの現状を定量的に示す本研究は、サービス向上に向けた議論の基礎資料となると考えられる。

2 LGBTQ関連資料の提供方法に関する議論・調査

本章では、まずLGBTQ関連資料の提供方法に関する議論や調査をまとめる。その後、既往研究を参照しながら本研究の位置づけを述べる。

図書館でLGBTQに関する情報を当事者が得ていることは様々な文献(8, 9)で報告されている一方で、当事者が抱えるLGBTQ関連資料の「手に取りづらさ」に言及する文献も少なくない。例えば、同性愛者だと思われてしまうのではないかと不安から目の前の本に手を伸ばすことができない(10)、書棚の間で他の人がいないときに手に取り、誰かが来たら戻す(11)といった実態が紹介されている。小澤は過去の調査(12, 13)等で示された「図書館で性的少数者関係書籍に手が出ない、書店で手に取りにくい」といった声について、2015年時点での実態を把握することを目的として、LOUD(レズビアンやバイセクシュアルの女性のためのコミュニティ)および特定非営利法人SHIP(セクシャルマイノリティのためのコミュニティースペース)においてアンケート調査を実施している。結果、学校図書館についての設問では「手に取りづらさ」やその年代にまだセクシャルマイノリティであることに気付いていなかったことから閲覧や貸出を受けていないケースが見られたことを明らかにしている(14)。

こうしたLGBTQ関連資料の「手に取りづらさ」は望まないカミングアウトにつながる危険性に起因すると考えられるが、土肥(15)は、排架の工夫によってそれを回避できると述べた上で、ホワイトボードに隠れた一番奥で資料を提供する学校図書館の事例を紹介している。また「ちょっとしたスタッフのやりとりや図書館のシステム、つくりが、LGBTなどのマイノリティを無意識に排除したり、阻害したりする」可能性を指摘する文献(16)もあり、当事者の資料利用のハード

ルが排架場所に依存する現状がうかがえる。

こうした手に取りづらさや、それに基づく排架場所の工夫に言及する文献がある一方で、(たとえ当事者の資料利用につながらなくとも) 図書館が LGBTQ 関連図書を所蔵・排架することの重要性に言及する文献も少なくない。例えば、山口 17) は LGBTQ について書かれた一般書について、以下のように述べている。

当事者は手に取ることが難しいとしても、彼らを励ますようなタイトルの本が棚にそこに並んでいるだけでも、その存在意義は小さくないと思う。古ぼけて傷んだ本ならばなおのこと、多くの人が手に取った様子が分かるから、孤立しがちな当事者同士がお互いの存在を身近に感じたりすることもあるかもしれない。貸出が少ないからといって購入を控えたり、すぐに書庫に入れたりすることは控えるべきではないだろうか。

また BL 本についても「たとえそれがフィクションであっても、不正確であっても、ある種のファンタジーであっても、同性愛を肯定的に描いた作品が図書館の書架に当たり前に置かれていることの意味は小さくない」とその「メッセージ性」に言及している。土肥 18) も学校の図書室に関連図書があることについて、LGBTQ の子どもたちがそうした図書にアプローチできることにとどまらず、LGBTQ の子どもたちへの肯定的なメッセージを伝える役割や、学校を変えるため・環境をつくるための「情報発信」という役割を持つ、と述べている。

また Chapman 19) は、LGBT 関連資料を独立して排架すべきか、一般的な資料と一緒に排架すべきかに焦点を当て、関連文献のレビューを行っている。この論文では、独立して排架する場合、見つけやすく 20) , 肯定的なメッセージを送るといったメリットがある一方で、カミングアウトしていないユーザーにとっては不安がある、破壊行為のリスクを伴うといったデメリットがあること、一般的な資料と一緒に排架する場合、自分のセクシャリティに気付いていない人たち、中立的、あるいは「反ゲイ」の異性愛者の利用者にセレンディピタスな発見を促し得るといったメリットがあることが述べられている。その上で Chapman は、LGBT 関連資料を独立して排架すべきかしないかについて「正しい」戦略はなく、意見も実践も分かれていると結論づけている。

さらに、特に展示に言及する文献としては以下のものがある。砂川 21) は、図書館における LGBTQ をテーマにした図書の紹介について、図書館がそうした企画等での問題に積極的に関わることを望まない当事者も存在することに言及しつつも「そのような企画を開催することは、より多くの人々にそれらの書籍を所蔵していることを知らせること、それらの書籍を通じて、その問題についての知識を持ってもらうために役立つ」と述べている。小澤 22) も、展示について当事者は手を出せないかもしれないが、公開の場に関連書籍が出ていることが「書架の間でこっそり読むものではない、一部の人にだけ必要なものではない」というメッセージになるとその重要性に言及している。Walker and Bates 23) は、図書館員及び LGBTQ 当事者に質的アンケート調査を実施し、104 件(図書館員 27 件、当事者 104) の回答を分析したところ、当事者から「図書館がこの種の情報を提供する場所であることをもっと認識させる必要がある」「LGBT の歴史月間のための展示は、それを普通のものにする(ノーマライズする)ために役に立ったと思われる」といった声が挙がっていたことや、27 人の回答者が LGBTQ 向けサービスや資料の広報を充実させるべきと提案し、特に展示

については14人の回答者が支持していたことを報告している。

さて以下では本研究の位置づけを述べる。日本国外において、図書館におけるLGBTQに関する資料の提供実態を示す研究は多数実施されている(24, 25, 26, 27, 28, 29, 30)。日本においても、国立国会図書館におけるゲイ雑誌の所蔵調査や(31)、公立図書館(32)や学校図書館(33)におけるLGBTQ関連図書の所蔵調査が実施されている。ただしこれらの調査では、上述したような閉架/開架や展示の実態については明らかになっていない。

国内の排架場所に関する報告としては、小澤(34)が、愛媛県立図書館や東京都八王子市図書館でLGBTQをテーマとした展示が行われていたことを報告している。加えて、LUDOライブラリについては閉架の実態に、SHIPについては閉架/開架の実態や複本に言及している。また、石見(35)は世田谷区立男女共同参画センターラプラスにおけるLGBTQへの情報提供サービスの実態を示しており、提供資料や展示、イベントについて報告している。このように、日本の図書館における閉架/開架や展示の実態など提供方法については特定の図書館における事例報告はされているものの、一定数の図書館を対象にその実態を調査した研究は少ない。

3 調査方法

本研究では、LGBTQ関連図書の提供実態とその利用実態を明らかにする一環として、(1)閉架/開架、(2)展示、(3)貸出、(4)除籍、に焦点を当て、全国126自治体、285館を対象に調査を実施した。以下では、分析対象、データの収集方法、の順に方法を述べる。

3.1 分析対象

著者らは2019年に、カーリル(<https://calil.jp/>)のAPIを用いてLGBTQ関連図書の所蔵調査を実施した(36)。この調査では、カーリルAPIで調査できる1,260自治体(3,085館)を調査対象とした。本研究では排架場所を調べる必要があるが、排架場所を調べるためには各図書館が公開するOPACを用いる必要がありOPACは基本的には自治体単位で検索を行う仕様になっていること、除籍の研究においては2019年の調査と同一の図書館・図書を対象とする必要があること、さらに調査コストの観点から、2019年のLGBTQ関連図書の所蔵調査で調査対象とした自治体から無作為に抽出した自治体の図書館を対象に調査を行うことが望ましいと考えた。そこで、2019年の調査対象の1,260自治体から無作為に選んだ126自治体(285館)を対象に、2019年の調査で各館が所蔵していることが明らかになったLGBTQ関連図書(図書館・図書の組み合わせはのべ13,726件)についてOPACで検索を行った(37)。

3.2 データの収集方法と分析方法

上述した通り、本研究では調査対象図書館(126自治体、285館)のOPACを用いて、2019年の調査において当該図書館での所蔵が確認された図書(のべ13,726件)の検索を行った。OPACでは詳細検索からISBNを指定して検索を行い、検索は2022年5月~11月に実施した。以下では、デー

4. 上記 1～3 以外の図書は「開架」と判断した。

以上の方法で、調査対象の各図書について「閉架」「開架」「移動図書館」いずれに排架されているかを判断し、それぞれの比率を算出した。

さらに、本研究では閉架や開架に関する以下の 3 つの表を作成した。即ち、(1) 閉架率が高い図書、(2) 閉架率、貸出率がいずれも高い図書、(3) 開架率、貸出率がいずれも高い図書、の 3 つである。これらの表は、今後 LGBTQ 関連図書の選書をしようとしている図書館員や、どれを開架に残して、どれを開架にするか迷っている図書館員の役に立つと考えられる。

それぞれの表中には各タイトルごとに、出版社、出版年、NDC カテゴリー、C コード、のデータを付与した。出版社、出版年、NDC カテゴリー、は国立国会図書館が提供する NDL-Search API を用いて収集した。C コードは紀伊國屋書店ウェブストア 40) から収集した。これらのデータは 2019 年 5～7 月に収集した。

3.2.2 展示

展示については、排架場所データ (図 1 参照) に「展」が含まれる図書を調査期間にその図書館で展示されていた図書とし、展示されやすい図書の上位 10 位を示した。また比較のために所蔵数が多かった図書の結果も併せて示した。

さて、上述の方法で展示について確認したところ、調査対象の LGBTQ 関連図書を展示していた図書館 (以下、展示館) は 21 館であることが明らかになった 41)。そこで、どのように LGBTQ 関連図書が展示されていたのかを明らかにするため、展示館に電話調査を行い、展示のテーマを尋ねた。ただし、ホームページで展示のテーマとブックリストを公開している図書館については、そこに含まれていない図書についてのみフォームで問い合わせた。また、閉館中につき電話を受け付けていない図書館についてもフォームで問い合わせた。以上の方法で 2022 年 12 月～2023 年 3 月にかけて電話 (19 館) とフォーム (2 館) を用いて問い合わせたところ、全 21 館から回答を得られた 42)。

3.2.3 貸出・除籍

貸出の分析に当たっては、OPAC の検索結果のうち「状態」など図書の状態が掲載されているデータ (以下、状態データ) を入手した (図 1 参照)。排架場所データと同様、一つの自治体に複数図書館がある場合は、当該図書館のデータのみを入手し、複本がある場合はすべてのデータを収集した。この状態データについて、「貸出中」「延滞」「予約」「置き」が含まれていた場合は、貸出中と判断した 43)。本研究では、全体に占める貸出中の図書の比率を示すと共に、貸出の多い図書上位 20 件も示した。

除籍については、OPAC の検索の結果、当該図書館が所蔵している資料として表示されなかった場合は除籍された図書と判断した。ただし図 2 のように、所蔵館が「移動図書館」となっている場合は、その図書は除籍されていないものと判断した。また「同一自治体内の図書館が所蔵していない場合」と「同一自治体内の図書館には所蔵されている場合」とで除籍の影響の大きさも異なることから、除籍された図書については同一自治体内の図書館における所蔵状況を再度検索した。その

上で、除籍された図書を「自治体内からなくなった図書」「同一自治体内の他館には所蔵されている図書」の2つの区分に分け、それぞれの数値を算出した。

所蔵		詳細					
蔵書数:	1冊	館	場所	請求記号	資料コード	禁帯区分	状態
貸出可能数:	1冊	BM	BM	/E/A/	1200173202	帯出可	貸出可
貸出数:	0冊						
予約件数:	0件						
1件中の1件目							前へ 次へ

図2 所蔵館がBM（移動図書館）になっている例

さらに、本研究では貸出・除籍に関する以下の2つの表を作成した。即ち、(1) 除籍率が低く貸出率が高い図書、(2) 除籍率、貸出率がいずれも高い図書、の2つである。これらの表は、今後LGBTQ関連図書のうちどれを除籍するか迷っている図書館員の役に立つと考えられる。

4 調査結果

以下では、(1) 閉架／開架、(2) 展示、(3) 貸出、(4) 除籍、の順に結果を述べる。

4.1 閉架／開架

「閉架」「開架」「移動図書館」それぞれの冊数を表1に示した。表1の「計」は、本研究でのOPAC検索の結果、所蔵が明らかになったLGBTQ関連図書の合計(13,709冊)44)である。複本はそれぞれ1冊として計算しており45)、()内の数値は所蔵数計(13,709冊)に占める比率である。例えば表1から、開架の図書は10,551冊であったこと、これは今回の調査で所蔵していることが確認された図書の77.0%を占めることが分かる。表1から、開架の図書が77.0%(10,551冊)であったのに対し、閉架の図書は22.7%(3,110冊)であったことが分かる。先述したように、LGBTQ関連図書を閲覧していることを他人には知られたくない当事者も多いと考えられる。しかしながら、本研究対象サンプルのうち、2割以上のLGBTQ関連図書が職員に声かけを必要とすることが明らかになった。LGBTQ関連図書の特性に配慮し、可能であればこの2割についても開架にすることが望ましいと考えられる。

ただし『日本の図書館: 統計と名簿 2022年版』46)によれば、2021年時点の日本の市区町村立図書館における「蔵書冊数に占める開架図書の比率」は57.3%であり、それ以外(開架以外)の図書の比率は42.7%であったことがうかがえる47)。上述した通り本研究の調査対象の図書・図書館では閉架の比率は22.7%であり、市区町村立図書館に限定しても同比率は21.3%に留まる。したがって、公立図書館はLGBTQ関連図書について、他の資料と比較すると開架にしようとしている可能性も示された48)。

さて表2は調査対象の図書433タイトルのうち、閉架率が高い図書、具体的には閉架率が100%の

表1 閉架、開架、移動図書館の図書の数

	所蔵数 (割合)
閉架	3,110 (22.7%)
開架	10,551 (77.0%)
移動図書館	48 (0.4%)
計	13,709 (100.0%)

図書を「所蔵数」の多い順に並べたものである。表中のタイトルには、出版社と出版年を（）に入れて付記した。また表中の「所蔵数」は調査対象館が所蔵する当該図書の合計を指し、「NDC」「Cコード」はそれぞれの図書のNDC カテゴリーとCコードを指す(49)。なお以後の表でも、各図書のタイトルが列挙される表では同様の情報を付与した。表2から、例えば1999年にかもがわ出版から刊行された『先生のレズビアン宣言：つながるためのカムアウト』は、NDC カテゴリーとCコードがそれぞれ367.97、C0036であること、この図書は調査対象館が所蔵していた計10冊がすべて閉架になっていたことが分かる。表2から、この図書をはじめLGBTQ関連図書であることがタイトルから分かる図書も閉架になっている傾向が分かる。

表2 閉架率が高い図書 (いずれも閉架率100%)

タイトル (出版社, 出版年)	NDC	Cコード	所蔵数	閉架数
先生のレズビアン宣言：つながるためのカムアウト (かもがわ出版, 1999)	367.97	C0036	10	10
クイア・イン・アメリカ：メディア、権力、ゲイ・パワー (パンドラ, 1997)	367.97	C0030	9	9
ベイビー・ビバップ (東京創元社, 2002)	933.7	C0197	9	9
彼女たちの愛し方 (ザ・マサダ, 1997)	367.97	C0095	6	6
ホモセクシュアルな欲望 (学陽書房, 1993)	367.97	C0010	6	6
310人の性意識：異性愛者ではない<女>たちのアンケート調査 (七つ森書館, 1998)	367.97	C0036	5	5
百合子、ダスヴィダーニヤ：湯浅芳子の青春 (学陽書房, 1996)	289.1	C0195	5	5
NPOインターン日記@CUAVサンフランシスコ：LGBTQ (レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クイア・クェッションング) コミュニティの中で (北の街社, 2005)	367.97	C0095	4	4
女性同性愛者のライフヒストリー (学文社, 1999)	367.97	C3036	4	4
ポリセクシュアル・ラヴ：ひとつではない愛のかたち (青弓社, 1997)	367.97	C0036	3	3
実践するセクシュアリティ：同性愛/異性愛の政治学 (動くゲイとレズビアンの会, 1998)	367.97	C0036	2	2
esora (講談社, 2012)	-	C0093	2	2
ハニー&ハニー：女の子どうしのラブ・カップル (メディアファクトリー, 2009)	726.1	C0195	2	2
性同一性障害のエスノグラフィ：性現象の社会学 (ハーベスト社, 2009)	367.9	C3036	2	2
戦前期同性愛関連文献集成：編集復刻版 (第1巻) (不二出版, 2006)	367.97	C0000	1	1
戦前期同性愛関連文献集成：編集復刻版 (第2巻) (不二出版, 2006)	367.97	C0000	1	1
戦前期同性愛関連文献集成：編集復刻版 (第3巻) (不二出版, 2006)	367.97	C0000	1	1
僕のゲイ・スタディーズ (新風舎, 2005)	367.97	C0095	1	1
バイセクシャル (碧天舎, 2004)	367.97	C0095	1	1
熟カマがゆく!：人生をより善く生きるための二丁目哲学 (廣済堂出版, 2001)	367.97	C0095	1	1
ゲイ・スタイル (河出書房新社, 1998)	367.97	C0195	1	1
ゲイ生活マニュアル (データハウス, 1998)	367.97	C0036	1	1
男性同性愛者のライフヒストリー (学文社, 1997)	367.97	C3036	1	1
トンドモ美少年の世界：あなたを惑わす危険な人々 (光文社, 1997)	367.97	C0195	1	1
ニューハーフ恋子の告白 (データハウス, 1996)	367.97	C0036	1	1
クイア批評 (世織書房, 2004)	902.09	C3098	1	1
医療・看護スタッフのためのLGBTIサポートブック (メディカ出版, 2007)	367.9	C3047	1	1
IS：男でも女でもない性 (講談社, 2002)	726.1	C9979	1	1

表3 閉架率, 貸出率が高い図書 (いずれも 10% 以上)

タイトル (出版社, 出版年)	NDC	Cコード	所蔵数	閉架率 (閉架数)	貸出率 (貸出数)
蘆刈・祀 (中央公論社, 1985)	-	-	7	85.7% (6)	14.3% (1)
欲望問題: 人は差別をなくすために生きるのではない (ポット出版, 2007)	367.97	C0095	9	66.7% (6)	11.1% (1)
クエア・スタディーズ (岩波書店, 2003)	367.97	C0310	17	58.8% (10)	11.8% (2)
カナダのセクシュアル・マイノリティたち: 人権を求めつづけて (教育史料出版会, 2005)	367.97	C0036	7	57.1% (4)	14.3% (1)
新宿二丁目のほがらかな人々 (角川書店, 2010)	367.97	C0195	4	50.0% (2)	25.0% (1)
セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援: エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて (開成出版, 2012)	367.9	C0037	2	50.0% (1)	50.0% (1)
森鷗外全集 (筑摩書房, 1995)	-	C0193	14	50.0% (7)	14.3% (2)
きのう何食べた? (講談社, 2007)	726.1	C9979	12	41.7% (5)	50.0% (6)
男の絆: 明治の学生からボーイズ・ラブまで (筑摩書房, 2011)	367.97	C0095	32	40.6% (13)	12.5% (4)
たまごちゃん、たびにでる (イタリア会館出版部, 2013)	726.6	C8736	8	37.5% (3)	25.0% (2)
弟の夫 (双葉社, 2015)	726.1	C9979	3	33.3% (1)	33.3% (1)
とりかえ・ばや (小学館, 2013)	726.1	C9979	6	33.3% (2)	33.3% (2)
きらきらひかる (新潮社, 1994)	-	C0193	98	30.6% (30)	19.4% (19)
ヒューマン・セクソロジー: 生きていくこと、生きていくこと、もっと深く考えたい (子どもの未来社, 2016)	367.99	C0037	4	25.0% (1)	25.0% (1)
鷗外近代小説集 (岩波書店, 2013)	913.6	C0393	17	23.5% (4)	23.5% (4)
カミングアウト・レターズ: 子どもと親、生徒と教師の往復書簡 (太郎次郎社エディタス, 2007)	367.97	C0036	30	23.3% (7)	20.0% (6)
マンゴスチンの恋人 (小学館, 2014)	913.6	C0193	5	20.0% (1)	20.0% (1)
花物語 (河出書房新社, 2009)	913.6	C0193	15	20.0% (3)	20.0% (3)
思春期サバイバル: 10代の時って考えることが多くなる気がするわけ。(はるか書房, 2013)	371.47	C0036	22	18.2% (4)	18.2% (4)
ぼくたちのリアル (講談社, 2016)	913.6	C8093	305	17.4% (53)	15.4% (47)
くりちゃんのふしぎなつき (集英社, 2013)	726.6	C8793	34	14.7% (5)	17.6% (6)
タンタンタンゴはババふたり (ポット出版, 2008)	726.6	C8798	67	13.4% (9)	44.8% (30)
くれよんのくろくん (童心社, 2001)	-	C8793	364	12.9% (47)	60.4% (220)
セックスワーク・スタディーズ: 当事者視点で考える性と労働 (日本評論社, 2018)	673.94	C3036	8	12.5% (1)	12.5% (1)
花物語 (河出書房新社, 2009)	913.6	C0193	16	12.5% (2)	18.8% (3)
くまのトーマスはおんなのこ: ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし (ポット出版プラス, 2016)	726.6	C8798	30	10.0% (3)	20.0% (6)

表3は、所蔵数に占める閉架率, 貸出率がいずれも高い (具体的には、いずれも 10% 以上の) 図書を閉架率の高い順に示したものである。貸出率は利用者の需要を表す数値の一つと考えられるため、ここに列挙されている図書は需要が高いものの閉架書庫に所蔵されやすい図書と考えられる。もしこれらが閉架になっている図書館があれば、開架にする方が良いかもしれない。

一方、開架率が 100% の図書は 82 タイトルであった。そのうち貸出率が 10% 以上の図書を所蔵数の多い順に並べたものが表4である。表4の図書は開架率と貸出率がいずれも高い図書と言える。例えば表4から、学研プラスから 2018 年に出版された『ぼくがスカートをはく日』は、調査対象館によって計 136 冊所蔵されておりすべての図書が開架になっていたこと、貸出率は 14.7% (136 冊のうち 20 冊が貸し出されていたこと) が分かる。これらの図書は図書館員によって開架に残されているという点で一定程度の質が担保されているとも考えられ、かつ需要が高い図書とも言えることから、LGBTQ 関連図書の所蔵を検討している図書館はこれらを所蔵するのも良いかもしれない。

4.2 展示

本研究で所蔵が明らかになった LGBTQ 関連図書 (のべ 13,709 冊) のうち、OPAC の検索結果から展示されていると判断された図書 (以下、展示された LGBTQ 関連図書) はのべ 85 冊 (0.6%) であった。表5は展示館数が多い図書の上位 10 位 (2 館以上で展示されていた図書 18 タイトル) を示したものである。また表6は比較のために、所蔵館数が多い図書の上位 18 位 (19 タイトル) を示したものである。展示館数が多い図書 (表5) と所蔵館数が多い図書 (表6) を比較すると、まず

表 4 開架率、貸出率が高い図書（開架率が 100% で貸出率が 10% 以上）

タイトル（出版社、出版年）	NDC	Cコード	所蔵数	貸出率 (貸出数)
ぼくがスカートをはく日（学研プラス，2018）	933.7	C8097	136	14.7% (20)
性の多様性ってなんだろう？（平凡社，2018）	367.9	C0036	114	11.4% (13)
13歳から知っておきたいLGBT+（ダイヤモンド社，2017）	367.9	C0036	95	10.5% (10)
LGBTなんでも聞いてみよう：中・高生が知りたいホントのところ（子どもの未来社，2016）	367.9	C0037	79	10.1% (8)
はじめてのジェンダー論（有斐閣，2017）	367.1	C1336	42	28.6% (12)
そして〈彼〉は〈彼女〉になった：安富教授と困った仲間たち（集英社インターナショナル，2016）	726.1	C0095	24	12.5% (3)
同性パートナーシップ制度：世界の動向・日本の自治体における導入の実際と展望（日本加除出版，2016）	324.62	C2032	15	13.3% (2)
教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ（法律文化社，2018）	367.9	C1036	14	14.3% (2)
トロピカル性転換ツアー（文藝春秋，2013）	289.1	C0195	12	16.7% (2)
フランスの同性婚と親子関係：ジェンダー平等と結婚・家族の変容（明石書店，2019）	367.97	C0036	12	25.0% (3)
ぼくは、かいぶつになりたくないのに（日本評論社，2018）	726.6	C0036	10	20.0% (2)
カミングアウト：トランスジェンダーの夫との離婚狂想曲（幻冬舎メディアコンサルティング，2015）	367.4	C0095	9	11.1% (1)
女子的生活（新潮社，2019）	913.6	C0193	9	22.2% (2)
女どうして子どもを産むことにしました（KADOKAWA，2016）	726.1	C0095	9	33.3% (3)
ゲイカップルのワークライフバランス：男性同性愛者のパートナー関係・親密性・生活（新曜社，2017）	367.97	C1036	7	14.3% (1)
トランスジェンダーと現代社会：多様化する性とあまいな自己像をもつ人たちの生活世界（明石書店，2018）	367.9	C0036	7	14.3% (1)
お母さん二人いてもいいかな!?: レズビアンママ生活（ベストセラーズ，2015）	726.1	C0095	7	14.3% (1)
LGBTだけじゃ、ない!「性別」のハナシ（ぶんか社，2016）	726.1	C0095	5	20.0% (1)
花嫁は元男子。（飛鳥新社，2016）	726.1	C0095	4	25.0% (1)
わたし、男子校出身です。: comic（ポプラ社，2009）	726.1	C0079	1	100.0% (1)
わたしが女の子を好きになった日（竹書房，2015）	726.1	C0979	1	100.0% (1)

「LGBT」という語句がタイトルに含まれる図書の数に差があることが分かる。具体的には、所蔵館数が多い図書 19 件中そのような図書は 1 件のみである一方、展示館数が多い図書 18 件にはそのような図書が 5 件含まれていた。

なお、調査対象の LGBTQ 関連図書（のべ 13,709 冊）に占めるタイトルに LGBT の文字を含む図書の比率は 12.4%（1,697 冊）であり、展示館が所蔵する LGBTQ 関連図書（のべ 1,376 冊）に占める同比率は 13.4%（185 冊）であった。一方、展示された LGBTQ 関連図書（のべ 85 冊）に占める同比率は 28.2%（24 冊）であった。調査対象の図書や展示館が所蔵する LGBTQ 関連図書に占める同比率よりも、展示された LGBTQ 関連図書に占める同比率が高いことから、そのような図書は展示されやすいと考えられる。

また、展示館数が多い図書には、タイトルに「LGBT」という語句が含まれている図書以外にも『性の多様性って何だろう?』『ぼくがスカートをはく日』『スカートはかなきゃダメですか?: ジャージで学校』『タンタンタンゴはパパふたり』『セクシュアル・マイノリティ Q&A』など、タイトルから LGBTQ がテーマであることが推測できる図書が一定数含まれている。

さらに表 5 と表 6 を比較すると、所蔵館数が多い図書には NDC カテゴリーが 9 類の文学作品が多数含まれる一方で、展示館数が多い図書には 3 類の図書が多数含まれることも分かる。公立図書館の蔵書は 9 類の比率が高くなりやすく 50)、また文学作品は抽象的なタイトルになる場合が少なくな。こうした理由から、所蔵上位の図書として 9 類の図書やタイトルから LGBTQ がテーマであることが推測しにくい図書が並んでいると考えられる。一方で、そのような図書が比較的多く所蔵されているにもかかわらず、展示館数が多い図書には 3 類の図書やタイトルから LGBT がテーマである

ことが分かりやすい図書が多く見られる。どのような要因からそのような傾向が見られたかは判断できないが、上記の結果から日本の公立図書館では、3 類の図書や、タイトルから LGBT がテーマであることが分かりやすい図書が、他の LGBTQ 関連図書に比べ展示されやすい傾向が示唆された。

次に、展示されていることが明らかになった図書について展示のテーマを各図書館へ尋ねたところ、表 7 の回答が得られた。表 7 から、今回の調査方法では LGBTQ に限定したテーマの展示は見られなかったものの、ある館の「ジェンダー平等に関する展示」には、調査対象の LGBTQ 関連図書の中から 31 点も選ばれていたことが分かる。また表 7 からは、「男女共同参画」や「SDGs」がテーマの展示で、他の資料と共に LGBTQ 関連図書が排架される傾向が示された。その他にもブックリストや特定作家の展示をはじめ、様々な展示の中で LGBTQ 関連図書が提供されている傾向も示された。中には「母の日の展示」で『ふたりママの家で』を展示していた図書館なども見られた。土肥 51) は、LGB の子どもたちへのサポートとして「同性愛についての肯定的な情報にあたりまえにアクセスできることだけでなく、異性愛を前提にしない学校づくりが求められる」と述べているが、母の日の展示でこうした図書が展示されることは「異性愛の両親を前提にしない」という点で土肥の提言と重なるものと言える。

また、Chapman 52) は、文献レビューに基づき一般的な資料と一緒に LGBTQ 関連資料を排架することについて、自分のセクシャリティに気付いていない人たちや異性愛者の利用者にセレンディピタスな発見を促し得るというメリットを挙げているが、日本の公立図書館ではこうした発見を促しうる展示が行われていることが示された。

表 5 展示館数が多い図書（上位 18 件）

順位	タイトル（出版社、出版年）	NDC	Cコード	展示館数
1	性の多様性ってなんだろう？（平凡社、2018）	367.9	0036	4
	13歳から知っておきたいLGBT+（ダイヤモンド社、2017）	367.9	0036	4
3	くれよんのくろくん（童心社、2001）	-	8793	3
	「ふつう」ってなんだ?:LGBTについて知る本（学研プラス、2018）	367.9	8036	3
	LGBTQを知っていますか?:"みんなと違う"は"ヘン"じゃない（少年写真新聞社、2015）	367.9	0037	3
	ぼくがスカートをはく日（学研プラス、2018）	933.7	8097	3
	変化球男子（鈴木出版、2018）	933.7	8397	3
8	スカートはかなきゃダメですか?:ジャージで学校（理論社、2017）	367.9	0395	2
	ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソン（河出書房新社、2014）	949.8	0098	2
	にじいろガーデン（単行本）（集英社、2014）	913.6	0093	2
	タンタンタンゴはパパふたり（ポット出版、2008）	726.6	8798	2
	LGBT BOOK:NHK「ハートをつなごう」（太田出版、2010）	367.9	0095	2
	境界を生きる:性と生のはざままで（毎日新聞社、2013）	367.9	0036	2
	セクシュアル・マイノリティQ&A（弘文堂、2016）	367.9	1036	2
	性と法律:変わったこと、変えたいこと（岩波書店、2013）	367.2	0236	2
	恋の相手は女の子（岩波書店、2016）	367.9	0236	2
	もっと知りたい!話したい!セクシュアルマイノリティありのままのきみがいい（汐文社、2015）	367.9	8376	2
	LGBTなんでも聞いてみよう:中・高生が知りたいホントのところ（子どもの未来社、2016）	367.9	0037	2

表6 所蔵館数が多い図書（上位18位）

順位	タイトル（出版社，出版年）	NDC	Cコード	所蔵館数
1	くれよんのくろくん（2001，童心社）	-	8793	364
2	ぼくたちのリアル（2016，講談社）	913.6	8093	305
3	にじいろガーデン（単行本）（集英社，2014）	913.6	0093	207
4	わたしはあかねこ（2011，文溪堂）	726.6	8793	178
	女子的生活（2016，新潮社）	913.6	0093	178
6	いろいろななかぞくのはん（2018，少年写真新聞社）	367.3	8797	164
7	上流階級：富久丸百貨店外商部（2013，光文社）	913.6	0093	159
8	二つの旅の終わりに（2003，徳間書店）	933.7	8097	155
9	ジョージと秘密のメリッサ（2016，偕成社）	933.7	8397	149
10	上流階級：富久丸百貨店外商部（2016，光文社）	913.6	0093	148
11	ムーンレディの記憶（2008，岩波書店）	933.7	8097	142
12	そういう生き物（2017，集英社）	913.6	0093	141
13	ぼくがスカートをはく日（2018，学研プラス）	933.7	8097	136
14	ヒットラーのカナリヤ（2008，小峰書店）	933.7	8397	129
15	空はいまぼくらふたりを中心に（2016，講談社）	913.6	0093	127
16	顔のない男（1994，富山房）	933	8097	116
	よくわかるLGBT：多様な「性」を理解しよう（2017，PHP研究所）	367.9	8537	116
18	パンツ・プロジェクト（2017，あすなろ書房）	933.7	0097	114
	性の多様性ってなんだろう？（2018，平凡社）	367.9	0036	114

4.3 貸出

本研究で所蔵が明らかになったLGBTQ関連図書（のべ13,709冊）のうち、OPACの検索結果から貸出中であると判断された図書はのべ1,063冊（7.8%）であった。表8は貸出率の高い図書上位20位を示したものである。ただし表8では、所蔵数が少ない場合に当該図書が貸し出されていた場合は、貸出率が跳ね上がる点には注意が必要である。表8には、Cコードの2桁目が「9（コミック）」の図書が4冊、児童向けの絵本（Cコードの1桁目が「8（児童）」かつ2桁目が「7（絵本）」の図書）が6冊含まれている。なお、前者には『わたしが女の子を好きになった日』『きのう何食べた？』『弟の夫』『とりかえ・ばや』、後者には『くれよんのくろくん』『タンタンタンゴはパパふたり』『わたしはあかねこ』『にじいろのしあわせ：マーロン・ブンドのあるいちにち』『いろいろななかぞくのはん』『たまごちゃん，たびにでる』が該当する。また『わたし，男子校出身です。:comic』は、Cコードの2桁目は「0（単行本）」だが、タイトルからコミックであることが分かる。

展示されやすい図書とは異なり、表8ではLGBTという語句がタイトル中に含まれる図書は見られなかった。しかし『わたし，男子校出身です。:comic』『わたしが女の子を好きになった日』『タンタンタンゴはパパふたり』『弟の夫』『女どうして子どもを産むことにしました』『花嫁は元男子。』などのように、タイトルから同性愛・同性婚やトランスジェンダーが主題であると分かりうる図書が多数含まれていた。

表7 展示のテーマと展示されていた調査対象のLGBTQ 関連図書の数

展示のテーマ		展示されていた 調査対象図書数↓
男女共同 参画関連	男女共同参画月間の展示	13
	読書で男女共同参画社会を考える	6
	男女共同参画社会の展示	1
SDGs関連	ジェンダー平等に関する展示	31
	「SDGsってなぁに」	5
	SDGs関連図書の紹介展示	4
ブックリスト	SDGsの展示	1
	ブックリスト「ぼくにきみにこどものための100冊」掲載の図書	1
	ブックリスト「図書館へおいでよ」掲載の図書	1
	ブックリスト「あの人を知るための扉」掲載の図書（著名な児童文学作家や絵本作家に関する評伝や研究書、著書）	1
特定作家	ブックリスト「扉をあけて！」掲載の図書（中学生向けの読書案内）	1
	作家（村上しいこ）の展示	1
その他	作家（小川糸）の展示	1
	「多様性ってなんだろう」	4
	「ここらについての本」（ティーンズコーナーにて期間を限定した展示ではなく別置）	5
	小中学生向けの朝読用の本の展示	3
	「今を生きる」（主に進路選択に悩む10代の子への応援を込めた展示）	1
	母の日の展示	1
	「カラフル」（色にまつわる資料）	1
	職員からのオススメ本	1
	「読んでもらいたい地下コレクション」	1
	「昔から読み継がれている本」	1
「読書感想文を書こう」（過去の課題図書の展示）	1	

4.4 除籍

2019年の所蔵調査で図書館に所蔵されていることが明らかになった図書のうち、どの程度が除籍されていたかを表したものが表9である。()内の数値は、調査対象のLGBTQ関連図書の数（のべ13,726点）に占める割合を示している(53)。表9から、調査対象の図書のうち、除籍された図書はのべ528点（=201点+327点）であり、3.8%（=528/13,726）の図書が除籍されていたことが明らかになった。さらに、除籍された図書のうちのべ327点のLGBTQ関連図書が、自治体内の公立図書館からなくなっていたことが明らかになった。LGBTQ関連図書が当該図書館から除籍されることで、資料の利用のハードルが跳ね上がる可能性があるため、除籍には慎重になる必要があると考えられる。少なくとも、LGBTQ関連図書であることがタイトルから分かりやすい図書の除籍には慎重になることや、自治体内の図書館や近隣の図書館で所蔵しているかを調べて除籍の判断をする必要があるのではないだろうか。

さて、貸出率が高かった図書を示した表8では、所蔵数が10以上の図書は以下の10タイトルであった。即ち、(1)くれよんのくろくん、(2)きのう何食べた?、(3)タンタンタンゴはパパふたり、(4)にじいろガーデン（文庫）、(5)にじいろガーデン（単行本）、(6)わたしはあかねこ、(7)はじめてのジェンダー論、(8)にじいろのしあわせ、(9)いろいろななかぞくのほん、(10)フランスの同性婚と親子関係、の10タイトルである。このうち「くれよんのくろくん」「にじいろガーデン（単行本）」「タンタンタンゴはパパふたり」は表5（展示館数が多い図書）にも現れることから、貸出率が高いだけでなく、展示されることが多かった図書であることも分かる。しかし、閉架率はそれぞれ

表 8 貸出率が高い図書（上位 20 件）

順位	タイトル（出版社，出版年）	NDC	Cコード	貸出数	所蔵数	貸出率
1	わたし、男子校出身です。：comic（ポプラ社，2009）	726.1	0079	1	1	100.0%
	わたしが女の子を好きになった日（竹書房，2015）	726.1	0979	1	1	100.0%
3	くれよんのくろくん（童心社，2001）	-	8793	220	364	60.4%
4	セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援：エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて（開成出版，2012）	367.9	0037	1	2	50.0%
	きのう何食べた？（講談社，2007）	726.1	9979	6	12	50.0%
6	タンタンタンゴはパパふたり（ポット出版，2008）	726.6	8798	30	67	44.8%
7	にじいろガーデン（文庫）（集英社，2017）	913.6	0193	6	14	42.9%
8	にじいろガーデン（単行本）（集英社，2014）	913.6	0093	70	207	33.8%
9	弟の夫（双葉社，2015）	726.1	9979	1	3	33.3%
	とりかえ・ばや（小学館，2013）	726.1	9979	2	6	33.3%
	女どうして子どもを産むことにしました（KADOKAWA，2016）	726.1	0095	3	9	33.3%
12	わたしはあかねこ（文溪堂，2011）	726.6	8793	52	178	29.2%
13	はじめてのジェンダー論（有斐閣，2017）	367.1	1336	12	42	28.6%
14	にじいろのしあわせ：マーロン・ブンドのあるいちにち（岩崎書店，2018）	726.6	8798	9	34	26.5%
15	いろいろなろんなかぞくのほん（少年写真新聞社，2018）	367.3	8797	42	164	25.6%
16	フランスの同性婚と親子関係：ジェンダー平等と結婚・家族の変容（明石書店，2019）	368.0	0036	3	12	25.0%
	新宿二丁目のほがらかな人々（角川書店，2010）	368.0	0195	1	4	25.0%
	たまごちゃん、たびにでる（イタリア会館出版部，2013）	726.6	8736	2	8	25.0%
	花嫁は元男子。（飛鳥新社，2016）	726.1	0095	1	4	25.0%
	ヒューマン・セクソロジー：生きていること、生きていくこと、もっと深く考えたい（子どもの未来社，2016）	368.0	0037	1	4	25.0%

13.4%，12.9%，5.8%とゼロではなく，除籍されたのべ 528 点の中にこれら 3 タイトルはそれぞれ 6，2，4 点含まれていた。展示されている資料は，図書館員が紹介したいと思っている資料とも考えられ，一定の質が担保されているとも考えられる。そのため，今後，何らかの理由から除籍が必要となった図書館は，特にこれらの 3 タイトルは避ける方が良いかもしれない。

最後に，調査対象の図書 433 タイトルのうち，除籍されなかった図書は 209 タイトルであった。そのうち貸出率が高い図書，具体的には貸出率が 10% 以上の図書を所蔵数の多い順に並べたものが表 10 である。表中の「所蔵館数」は 2019 年の調査で当該図書を所蔵していることが明らかになった図書館の数，「所蔵数」は本調査で所蔵していることが明らかになった図書の数（複本を含む）である。例えば表 10 から，ポプラ社から 2016 年に刊行された『いろいろな性，いろいろな生きかた』は 2019 年の調査時点で 50 館が所蔵しておりそれらは 2022 年時点でいずれも除籍されていなかったこと，50 館が所蔵していた図書 51 冊の貸出率は 11.8% であったことが分かる。「開架率が 100% で貸出率が 10% 以上の図書」同様，これらの図書は図書館員によって除籍を免れたという点で一定程度の質が担保されているとも考えられ，かつ需要が高い図書とも言えることから，LGBTQ 関連図書の所蔵を検討している図書館は，これらを所蔵するのも良いかもしれない。

表 9 除籍された図書の数

	該当する図書の数
調査対象のLGBTQ関連図書（延べ数）	13,726
うち除籍された図書（自治体内にあり）	201（ 1.5% ）
うち除籍された図書（自治体内になし）	327（ 2.4% ）
うち除籍されていない図書（複本除く）	13,198（ 96.2% ）

表 10 除籍率が低く貸出率が高い図書（除籍されなかった図書のうち貸出率が 10% 以上の図書）

タイトル（出版社，出版年）	NDC	Cコード	所蔵館数	所蔵数	貸出率 (貸出数)
いろいろな性、いろいろな生きかた（ポプラ社，2016）	367.99	C8036	50	51	11.8% (6)
わたしらしく、LGBTQ（大月書店，2017）	367.9	C8336	43	43	11.6% (5)
くまのトーマスはおんなのこ：ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし（ポット出版プラス，2016）	726.6	C8798	29	30	20.0% (6)
彼らが本気で編むときは、（パルコエンタテインメント事業部，2017）	913.6	C0095	23	23	17.4% (4)
思春期サバイバル：10代の時って考えることが多くなる気がするわけ。（はるか書房，2013）	371.47	C0036	22	22	18.2% (4)
クエア・スタディーズ（岩波書店，2003）	367.97	C0310	17	17	11.8% (2)
マンガレインボーKids：知ってる？LGBTの友だち（子どもの未来社，2017）	367.9	C0037	16	17	17.6% (3)
そいねドリーマー（早川書房，2018）	913.6	C0093	15	15	13.3% (2)
同性パートナーシップ制度：世界の動向・日本の自治体における導入の実際と展望（日本加除出版，2016）	324.62	C2032	15	15	13.3% (2)
森鷗外全集（筑摩書房，1995）	-	C0193	14	14	14.3% (2)
花物語（河出書房新社，2009）	913.6	C0193	14	15	20.0% (3)
フランスの同性婚と親子関係：ジェンダー平等と結婚・家族の変容（明石書店，2019）	367.97	C0036	12	12	25.0% (3)
トロピカル性転換ツアー（文藝春秋，2013）	289.1	C0195	12	12	16.7% (2)
ぼくは、かいぶつになりたくないのに（日本評論社，2018）	726.6	C0036	10	10	20.0% (2)
きのう何食べた？（講談社，2007）	726.1	C9979	10	12	50.0% (6)
女子的生活（新潮社，2019）	913.6	C0193	9	9	22.2% (2)
カミングアウト：トランスジェンダーの夫との離婚狂想曲（幻冬舎メディアコンサルティング，2015）	367.4	C0095	9	9	11.1% (1)
たまごちゃん、たびにでる（イタリア会館出版部，2013）	726.6	C8736	8	8	25.0% (2)
セックスワーク・スタディーズ：当事者視点で考える性と労働（日本評論社，2018）	673.94	C3036	8	8	12.5% (1)
ゲイカップルのワークライフバランス：男性同性愛者のパートナー関係・親密性・生活（新曜社，2017）	367.97	C1036	7	7	14.3% (1)
カナダのセクシュアル・マイノリティたち：人権を求めつづけて（教育史料出版会，2005）	367.97	C0036	7	7	14.3% (1)
トランスジェンダーと現代社会：多様化する性とあいまいな自己像をもつ人たちの生活世界（明石書店，2018）	367.9	C0036	7	7	14.3% (1)
お母さん二人いてもいいかな!?: レズビアンママ生活（ベストセラーズ，2015）	726.1	C0095	7	7	14.3% (1)
とりかえ・ばや（小学館，2013）	726.1	C9979	6	6	33.3% (2)
マンガスチンの恋人（小学館，2014）	913.6	C0193	5	5	20.0% (1)
LGBTだけじゃ、ない!「性別」のハナシ（ぶんか社，2016）	726.1	C0095	5	5	20.0% (1)
新宿二丁目のほがらかな人々（角川書店，2010）	367.97	C0195	4	4	25.0% (1)
花嫁は元男子。（飛鳥新社，2016）	726.1	C0095	4	4	25.0% (1)
ヒューマン・セクソロジー：生きていること、生きていくこと、もっと深く考えたい（子どもの未来社，2016）	367.99	C0037	4	4	25.0% (1)
弟の夫（双葉社，2015）	726.1	C9979	3	3	33.3% (1)
セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援：エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて（開成出版，2012）	367.9	C0037	2	2	50.0% (1)
わたし、男子校出身です。：comic（ポプラ社，2009）	726.1	C0079	1	1	100.0% (1)
わたしが女の子を好きになった日（竹書房，2015）	726.1	C0979	1	1	100.0% (1)

一方、貸出率が 10% 以上の図書について、除籍率上位 20 位までを示したものが表 11 である。これらは需要が高いにもかかわらず除籍されてしまった図書とも考えられる。これらの図書を所蔵している図書館は除籍しない方が良いかもしれない。

5 おわりに

本研究では、日本の公立図書館を対象に、LGBTQ 関連図書の閉架／開架、展示、貸出、除籍の実態を調査した。126 自治体の 285 館を対象に、OPAC を用いてのべ 13,726 件の LGBTQ 関連図書を調査したところ、2021 年時点で (1) 閉架書庫に所蔵されている（職員に声かけが必要な）LGBTQ 関連図書の比率は 22.7% であったこと、(2) 展示されている図書の比率は 0.6% であったこと (54)、(3) 貸出中の図書の比率は 7.8% であったこと、(4) 2019 年に所蔵していることが明らかになった図書のうち 3.8% が除籍されており、2.4% が自治体内の公立図書館からなくなっていたこと、が明らかになった。

表 11 除籍率、貸出率が高い図書（貸出率が 10% 以上の図書のうち、除籍率が高い図書上位 20 位）

タイトル（出版社、出版年）	NDC	Cコード	所蔵館数	除籍率 (除籍数)	所蔵数	貸出率 (貸出数)
1 蘆刈・祀（中央公論社、1985）	-	-	8	25.0% (2)	7	14.3% (1)
2 欲望問題：人は差別をなくすためだけに生きるのではない（ポット出版、2007）	367.97	C0095	10	10.0% (1)	9	11.1% (1)
女どうして子どもを産むことにしました（KADOKAWA、2016）	726.1	C0095	10	10.0% (1)	9	33.3% (3)
4 カミングアウト・レターズ：子どもと親、生徒と教師の往復書簡（太郎次郎社エディタス、2007）	367.97	C0036	32	9.4% (3)	30	20.0% (6)
5 男の絆：明治の学生からボーイズ・ラブまで（筑摩書房、2011）	367.97	C0095	35	8.6% (3)	32	12.5% (4)
6 そして〈彼〉は〈彼女〉になった：安富教授と困った仲間たち（集英社インターナショナル、2016）	726.1	C0095	26	7.7% (2)	24	12.5% (3)
7 教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ（法律文化社、2018）	367.9	C1036	15	6.7% (1)	14	14.3% (2)
にじいろガーデン（文庫）（集英社、2017）	913.6	C0193	15	6.7% (1)	14	42.9% (6)
9 花物語（河出書房新社、2009）	913.6	C0193	16	6.3% (1)	16	18.8% (3)
10 上流階級：富久丸百貨店外商部（光文社、2013）	913.6	C0093	164	6.1% (10)	159	11.9% (19)
11 くりちゃんのふしぎながつき（集英社、2013）	726.6	C8793	36	5.6% (2)	34	17.6% (6)
鷗外近代小説集（岩波書店、2013）	913.6	C0393	18	5.6% (1)	17	23.5% (4)
13 きらきらひかる（新潮社、1994）	-	C0193	89	4.5% (4)	98	19.4% (19)
14 LGBTなんでも聞いてみよう：中・高生が知りたいホントのところ（子どもの未来社、2016）	367.9	C0037	81	3.7% (3)	79	10.1% (8)
15 僕たちのカラフルな毎日：弁護士夫婦の波瀾万丈奮闘記（産業編集センター、2016）	367.97	C0036	29	3.4% (1)	28	10.7% (3)
性の多様性ってなんだろう？（平凡社、2018）	367.9	C0036	118	3.4% (4)	114	11.4% (13)
17 タンタンタンゴはパパふたり（ポット出版、2008）	726.6	C8798	64	3.1% (2)	67	44.8% (30)
13歳から知っておきたいLGBT+（ダイヤモンド社、2017）	367.9	C0036	98	3.1% (3)	95	10.5% (10)
19 にじいろのしあわせ：マーロン・ブンドのあるいちにち（岩崎書店、2018）	726.6	C8798	34	2.9% (1)	34	26.5% (9)
20 レッド：あかくてあおいクレヨンのはなし（子どもの未来社、2017）	726.6	C8797	87	2.3% (2)	88	12.5% (11)

加えて、展示されやすい図書の上位にはタイトルから LGBTQ がテーマであると分かりやすい図書が並んでいたこと、男女共同参画や SDGs, 母の日の展示など、様々な展示で LGBTQ 関連図書が排架されていることが明らかになった。最後に、コミックや児童向けの絵本は貸出率が高いことも明らかになった。

以上のように、本研究は LGBTQ 関連図書の提供実態の一端を明らかにした。しかしこれらの調査では、図書館員がどのように考えた上で、上述のような提供方法が選択されているかや、当事者にとって求める図書が求める形で提供されているかは明らかになっていない。そこで今後は、図書館員や当事者を対象にアンケートやインタビュー調査を実施しそれらを明らかにしたい。

謝辞

お忙しいところ、電話調査にご協力いただいた図書館のみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。また、データ確認に協力いただいた藤本まなみさまに感謝申し上げます。本研究は JSPS 科研費 19K20632, 22K18157 の助成を受けたものです。

注・引用文献

- 1) セクシュアルマイノリティの総称としては、性的マイノリティ、LGBT, LGBTI, LGBTQIA, LGBTQ+, など様々なものが存在するが、本研究では LGBTQ を用いる。
- 2) 例えば、下記の文献でその重要性が述べられている。
 - 針間克己, 平田俊明編著 『セクシュアル・マイノリティへの心理的支援：同性愛, 性同一性

障害を理解する』岩崎学術出版社, 2014, p.22, p.213.

- 小澤かおる 『マイノリティの情報保障』 博士論文 (首都大学東京), 2015, 157p.
- 3) 図書館が LGBTQ 関連資料を提供することの重要性を述べている文献としては, 例えば下記のものがある。
- Chapman, Elizabeth L. *Provision of LGBT-related fiction to children and young people in English public libraries: a mixed-methods study*. Doctoral dissertation (University of Sheffield), 2015, 638p.
 - 「特集 性的マイノリティへの情報サービス」『現代の図書館』 56(4), 2018.12.
 - The International Federation of Library Associations and Institutions (IFLA), *LGBTQ Users Special Interest Group*. <<https://www.ifla.org/units/lgbtq/>>. [引用日: 2023-03-06]
- 4) 水沼友宏, 辻慶太 「公立図書館における LGBTQ 関連図書の所蔵実態」『日本図書館情報学会誌』 68(2), 2022.6, p.73–94.
- 5) 126 自治体は Excel の RAND 関数を用いて無作為に抽出した。日本全体の傾向を示すにはサンプル数が不足していることが懸念されるが, 100 を超える自治体について調査することは一定の意義があると考えられる。
- 6) なお後述するように, 筆者は利用者のプライバシーを考慮すると, LGBTQ 関連資料は職員に声をかける必要がなく, また職員や他の利用者の目につきにくい場所に図書を排架することが望ましいという立場を取るが, 本研究では前者の「職員への声かけ」の必要性について現状を示すにとどまり, 目につきにくい場所に排架されているか否かについては今後の課題とする。
- 7) 特定非営利活動法人 MixRainbow 「LGBTQ 辞書」 <<https://www.mixrainbow.jp/dictionary/>>. [引用日: 2023-03-06]
- 8) 例えば下記のような当事者の声が見られる。
- 高 2 まで家にパソコンがなくて, 情報収集はもっぱら本。中 1 から地元の公立図書館にある GID 関連の本を片っ端から全部読んだ (薬師実芳, 笹原千奈未, 古堂達也, 小川奈津己 『LGBT ってなんだろう?: 自認する性・からだの性・好きになる性・表現する性』 合同出版, 2019, p.96.)
 - 僕はその高校のすぐ隣にある市立図書館によく出かけてました。それまでできるだけ考えないようにしていた問題について, とりあえずいろいろ知りたかったので, 他に思いつかなかったから, 図書館の性教育コーナーや, 小説のコーナーや, 社会学のコーナーなどで, 情報を探してみました (RYOJI, 砂川秀樹編 『カミングアウト・レターズ: 子どもと親, 生徒と教師の往復書簡』 太郎次郎社エディタス, 2007, p.48–49.)
- 9) LGBTQ のライフヒストリーに「図書館に行ってトランスジェンダーで検索して出てくる本を全部読んだ」「図書館で同性愛について書かれた本を読んで, 同性愛は異常じゃないと知りほっとした」といったような文言が頻繁に見られることに言及する文献もある (静岡産レズビアン 「マイノリティにとっての図書館の意味」『静岡市の図書館をよくする会』 <<https://web.archive.org/web/20181107223620/http://www.geocities.jp/yokusurukais/rezu.html>>. [引用

日: 2023-03-06]

- 10) 吉仲崇, 星野慎二 「セクシュアルマイノリティと図書館の交差点: SHIP にじいろキャビンの取り組みから」『現代の図書館』 50(3), 2012.9, p.183–191.
- 11) 小澤かおる 「性的少数者と図書館の重要性: 情報保障はなぜ必要か」『現代の図書館』 56(4), 2018.12, p.163–168.
- 12) 小澤かおる 「小規模社会運動印刷物におけるデジタル化・データベース化の手順作成 2: 女性的少数者運動体ユーザに対するアンケート調査」『学生研究助成金論文集 (和光大学)』 (16), 2008, p.183–199.
- 13) 小澤かおる 「セクシュアル・マイノリティの問題と図書館への期待」『カレントアウェアネス』 (305), 2010.9, p.6–7.
- 14) 小澤かおる 『マイノリティの情報保障』 博士論文 (首都大学東京), 2015, 157p.
- 15) 土肥いつき 「LGBTQ の子どもたちへのサポートと学校図書館への期待」『現代の図書館』 56(4), 2018.12, p.175–181.
- 16) 砂川秀樹 「LGBT と図書館の役割」『現代の図書館』 56(4), 2018.12, p.169–174.
- 17) 山口真也 「図書館ノート (39) セクシュアルマイノリティと図書館: 岐阜・同性愛関係資料盗難事件から考えたこと」『みんなの図書館』 (452), 2014.12, p.49–54.
- 18) 土肥いつき, 前掲 15).
- 19) Chapman, Elizabeth L. *Separate versus integrated collections for GLBT fiction in the public library service: a literature review*. [2007], <https://www.seapn.org.uk/uploads/files/glbt_literature_review_for_seapn.pdf>. [引用日: 2023-03-06]
- 20) ただし, これについては議論が分かれるとも述べられている。
- 21) 砂川秀樹, 前掲 16).
- 22) 小澤かおる, 前掲 11).
- 23) Walker, Janine and Bates, Jo. “Developments in LGBTQ provision in secondary school library services since the abolition of Section 28,” *Journal of Librarianship and Information Science*. 2015.7, p.1–23.
- 24) Chapman, Elizabeth L. *Provision of LGBT-related fiction to children and young people in public libraries*. Master’s dissertation (University of Sheffield), 2007, 260p.
- 25) Chapman, Elizabeth L. *Provision of LGBT-related fiction to children and young people in English public libraries: a mixed-methods study*. Doctoral dissertation (University of Sheffield), 2015, 638p.
- 26) Moss, Eleanor. “An inductive evaluation of a public library GLBT collection,” *Collection Building*. 27(4), 2008.10, p.149–156.
- 27) Schneider, David G. *Out of the closet and onto the shelves: a checklist study of gay fiction in public libraries in Franklin County*. Master’s dissertation (Kent State University), 1998, 33p.
- 28) Boon, Michele H. and Howard, Vivian, “Recent lesbian/gay/bisexual/transgender fiction for

- teens: are Canadian public libraries providing adequate collections?" *Collection Building*. 23(3), 2004.9, p.133–138.
- 29) Howard, Vivian. "Out of the closet...but not on the shelves? An analysis of Canadian public libraries' holdings of gay-themed picture books," *Progressive Librarian*. 25, 2005, p.62–75.
 - 30) Yılmaz, Murat. "Gay, lesbian, and bisexual themed materials in the public libraries in Turkey," *Libri*. 64(1), 2014.3, p.11–27.
 - 31) 石田 仁「ゲイ雑誌: その成り立ちと国立国会図書館の所蔵状況」『現代の図書館』56(4), 2018.12, p.196–204.
 - 32) 水沼友宏, 辻慶太, 前掲 4).
 - 33) 亙愛華『高校図書館における LGBT に関する図書の所蔵調査』駿河台大学メディア情報学部ゼミ論文. <https://hanno-h.spec.ed.jp/zen/wysiwyg/file/download/1/2957>. [引用日: 2023-03-06]
 - 34) 小澤かおる, 前掲 14).
 - 35) 石見明子「世田谷区立男女共同参画センターらぶらすの概要と, LGBTQ への情報提供サービス」『現代の図書館』56(4), 2018.12, p.187–195.
 - 36) 水沼友宏, 辻慶太, 前掲 4).
 - 37) なお, 2019 年に実施した筆者の調査は, 433 件の LGBTQ 関連図書を調査対象の図書としたものである。この中には外国語の図書は含まれておらず, コミックについては 1 巻のみを対象とした。
 - 38) 利用に際して職員の声かけが必要ない場合が多いものの, 図書館内に排架されておらず自由に閲覧が出来ない可能性が高いため。
 - 39) 京都市については「庫 1」「庫 3」といった単語が含まれる場合も同様の手続きを踏んだ。
 - 40) 紀伊國屋書店「紀伊國屋書店ウェブストア」<<https://www.kinokuniya.co.jp/c/label/video/>>. [引用日: 2023-03-06]
 - 41) ただし, 1 館については電話調査の結果, グループ分けをして分類しているものの期間を定めなため展示というよりは別置という回答が得られた。以下では便宜上これも展示に含める。
 - 42) 本研究では, 上述の通り OPAC 上で排架場所として「展」が含まれている場合に電話調査を実施し, 展示の実施状況を確認した。しかし, 展示されているものの, OPAC 上ではそれが判断できないケースもあると考えられる。これについては, 調査方法の限界から今後の課題とし, 今回は上述の方法で展示が実施されていることが確認された場合のみを対象に分析を行った。
 - 43) ただし, 「貸出: ×」とのみ表示されていた資料については, 禁帯出の本である可能性もあるため, 併記されている「貸出数」から当該図書が貸出中か否かを判断した。
 - 44) 除籍された図書を除く数値である。
 - 45) なお, 複本は 511 冊所蔵されていた。
 - 46) 日本図書館協会「公共図書館集計 (2021 年)」 <https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/chosa/2022pub_shukei.pdf>. [引用日: 2023-03-06]
 - 47) 市区立, 町村立の蔵書冊数がそれぞれ 355,390, 51,299 (計 406,689), うち開架図書冊数がそれぞれ

れ 199,807, 33,175 (計 232,982) であることから、開架図書の比率は 57.3% (=232,982/406,689) であることが分かる。

- 48) ただし、本研究の調査対象の図書サンプルは、LGBTQ 関連図書を網羅しているとは言い難く、単純な比較には留意する必要がある。この点については追加の調査が求められる。
- 49) 3.2.1 節で述べたように、出版社、出版年、NDC カテゴリー、は国立国会図書館が提供する NDL-Search から、C コードは紀伊國屋書店ウェブストアから収集した。
- 50) 池内淳, 中川恵理子「公立図書館の蔵書構成比と貸出規則に関する実態調査」『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』 2009 年度, 2009, p.29-32.
- 51) 土肥いつき, 前掲 15).
- 52) Chapman, Elizabeth L. *op. cit.* 19).
- 53) 2019 年の調査では複本について調査していないことから、除籍の分析については複本について考慮していない。従って、所蔵されていることが明らかになったのべ 13,709 冊ではなく、調査対象の LGBTQ 関連図書のべ 13,726 点に占める割合を算出している。
- 54) ただし、先述したとおり期間を定めてのテーマ展示ではなく、テーマの基づく別置も含む。